



不動滝下流で出会った釣り人

再び市野へ向けて下山していくと、山道にはヤマツツジやタニウツギ、ホオノキなど樹の花が盛りだった。下を見ればシャガやカキドオシなど野の花に混じり、園芸植物のカザグルマが咲いていたりして、ここが人里だった時代が偲ばれるのだった。

## 名瀑の不動滝

市野には最多一二戸が住み、すぐ傍らにある鹿島神社の南沢辺には大谷地方面から引いた堰堀があつて、その跡も田形も見えたと『村誌』にはあるが、今現在、住するのは一戸のみという。神社へ至る道筋には草々が繁茂し、無人の家屋の窓にはトタンが打ちつけてあつて、廃屋の朽ちるがままになるのであろうが、唐澤さんのもらした「淋しいことです」という言葉を、どのように解釈したものだろう。今はまだ、とても清潔な集落の佇いである。

この市野には、前述もしたが柳津町軽井沢に抜ける道が通っている。かつては大谷地から山越えのルートだったのかもしれないが、いずれ元和元年（二六一五）に開発された軽井沢銀山に至る道で、『新編会津風土記』には「昔繁栄の時は、本地および逆瀬川等の駅所にて往来も多かりし」とある。この道はそのまま



タニウツギ



ホオノキ



シャガ



カキドオシ



キンボウゲ



カザグルマ



写真上——踏み跡も消えつつある鹿島神社  
 写真下——市野の無人の家屋



下流に伸びて佐賀瀬川—根岸—下荒井—蟹川—会津若松城下へと至る。俗に銀山街道と呼ばれる道である。

ここに延享三年（一七四六）創始の、軍神を祀る鹿島神社があるのは、『村誌』の大谷地の記述と同じく、「銀山開発のため入りこんだ落

武者などの谷地開墾による定住部落ではないかという推測」ができよう。

私たちはここで、上平へと下る前に、名瀑といわれる不動滝へ寄り道することにした。クマの出没を注意され、やたら手を叩きつつ沢を遡行すること約一〇分、大谷地溪谷最大